

# 令和6年度 東京都立広尾高等学校 学校経営計画

## 1 目指す学校、スクール・ミッション、スクール・ポリシー

### (1) スクール・ミッション

「清く、明るく、直く、知性豊かに、和の心を持ち、創造の道を歩もう」を校訓とし、主体的な学習活動や特別活動、地域連携などの特色ある教育活動を通じて、規範意識を育み、健康や体力を充実させ、主権者として必要な資質・能力を確実に伸ばし、社会の中核となる人材を育成する。

### (2) スクール・ポリシー

#### ① グラデュエーション・ポリシー

社会の中核となる人材を育成するために必要な論理的思考力、創造力、対話力、課題解決能力を身に付けさせる。

#### ② カリキュラム・ポリシー

教育目標の達成のための教育課程を編成し、必要な資質・能力を育成する各教科の見方・考え方を身に付けるための教育活動を行う。

#### ③ アドミッション・ポリシー

ア 本校の教育目標や教育内容を理解し、本校への入学の意志が明確な生徒を求める。

イ 自ら高い進路目標をもち、その実現のために、意欲的に学習などに取り組む生徒を求める。

ウ 部活動や学校行事、生徒会活動や地域貢献活動などに、積極的に取り組む生徒を求める。

エ 基本的な生活習慣と規範意識を身に付け、ルールやマナーを順守する生徒を求める。

### (3) 目指す学校

① 主体的な学習活動や特別活動、地域連携などの特色ある教育活動を通じて、規範意識を育み、健康や体力を充実させ、主権者として必要な資質・能力を確実に伸ばし、社会の中核となる人材を育成する学校

② すべての教育活動を通じて「主体性」を持った生徒を育てる学校

## 2 中期的目標

【目標1】学力向上と希望進路の実現

【目標2】活力のある学校生活の実現

【目標3】地域等との連携と情報発信の実現

【目標4】持続可能な学校づくりの実現

## 3 中期的目標に対する方策・数値目標

### 【目標1】学力向上と希望進路の実現

(1) 思考力、読解力、文章力、情報収集・活用力を育成し、学力向上を図る。

① 模擬試験やスタディサポート結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を行う。

② 家庭学習を前提とした授業づくりを通して、生徒が主体的に家庭での自主学習に取り組む習慣をつけさせる。

③ 一人1台端末を活用した学習指導の充実を図り、生徒の学力を向上させる。

- ④ 長期休業期間等における、生徒の学力向上を目的とした補習・講習等の講座を強化する。

**数値目標**

- (1)② 「主体的・協働的な深い学び」の研究として、教科横断的に相互授業参観や若手教員育成のための研究授業等に、年3回以上参加する。
- (1)③ 全教員が週に1回程度 ICT 端末を利用した授業を行う。
- (1)④ 年間通じた夏期・冬期講習、補習等の講座を延 65 講座以上、講習時間を延べ 400 時間以上 (Web 配信含む) を目指す。
- (2) 生徒が自ら高い目標を設定して実現する進路指導を行う。
- ① 一般受験を推奨する指導を継続し、模擬試験等の分析結果を有効に活用し、個に応じた出願指導を行う。
- ② 「進学指導研究校」の指定を活用し、3年間を見通した意図的・計画的な進学指導を行う。
- ③ 「進路の手引き」等を活用し、進路ガイダンス等の進路行事を、適切な時期に実施する。

**数値目標**

- (2)① G M A R C H 以上の大学への現役合格者数を延 80 人以上、中堅以上の大学 (日東駒専+成成明國独武) の合格数を、延 250 名以上とする。
- (2)② 年3回以上の模試分析会、データ会議の分析結果を授業に活かし、3学年最終模試で、平均点偏差値を文系科目 52 以上、理系科目 50 以上とする。
- (2)③ 大学入学共通テストの受験率の 80% 以上の定着を図り、各科目得点で、全国平均点以上とする。
- (3) 豊かな国際感覚の育成 (英語教育推進)
- ① 英語技能検定を全学年で実施し、英語技能の強化とともに大学受験に必要な資格取得を目指す。
- ② 第1学年の語学研修として、T G G での校外学習を実施する。
- ③ 1・2 学年対象の福島県のブリティッシュヒルズで宿泊語学研修を実施する。
- ④ 「人間と社会」、「総合的な探究の時間」、L H R 等を活用し、東京都国際交流コンシェルジュや在京大使館等を利用した異国文化理解、交流活動、講演等を推進する。
- ⑤ 「海外学校間交流推進校」として、海外の学校との交流を実施し、それと共に海外に派遣できない場合でも実施可能な交流について研究する。

**数値目標**

- (3)① 英語技能検定 2 級以上合格者目標 (延べ人数)  
3 年生 50% (120 人)、2 年生 40% (80 人)、1 年生 30% (60 人)
- (4) 読書活動を通じて語彙量の増大や思考力・判断力・表現力の向上を目指す。
- ① 学校図書館と教科等が連携し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動等での利活用を図る。
- ② 教職員・生徒による推薦図書を紹介やビブリオバトルの実施等、読書活動を推進する。
- ③ I C T 機器を配備し、協働的な学びや探究活動を推進する図書館環境を整備する。

### 数値目標

- (4)① 探究的学習や課題学習等において、図書館を年2回以上活用する。
- (4)② 1・2年生徒の読書推進に取り組み、不読率を9%未満とする。

## 【目標2】活力のある学校生活の実現

(5) 特別活動の充実に向けた指導を継続する。

- ① 部活動の一層の活性化と学校行事の充実により、生徒の学校への帰属意識を高める。
- ② 適切な活動時間及び休養日等を設定し、合理的でかつ効率的・効果的な部活動を推進する。

### 数値目標

- (5)① 部活動への加入率を100%とする。
- (6) 基本的生活習慣の確立と規範意識を醸成する指導を継続する。
  - ① 「都立高校生活指導指針」に基づく指導により、ルールやマナーを遵守する態度を育てると共に、生徒の生命尊重の指導や自殺防止のための教育を推進し、体罰・いじめを根絶する。
  - ② 遅刻防止、挨拶の励行、身だしなみ等の指導を、全教員の共通理解に基づき実施する。

### 数値目標

- (6)① 体罰・いじめ・生命に関わる重大事故0、年間の遅刻率を2%未満とする。
- (7) 「学校健康推進計画」に基づく学校保健指導の充実により、健康や体力の向上を目指す。
  - ① 保健の授業や専門医の講話による保健指導の充実、学校保健委員会の活用、学校医との連携等を継続する。
  - ② 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」や「エンジョイスポーツプロジェクト」に基づき、楽しみながら運動やスポーツに参画し、体力向上を目指す。
  - ③ 保健通信やS Cだより等により保健・相談関係の情報発信を行う。

### 数値目標

- (7)① 産婦人科医を招聘し、ライフプランと健康との関わりに関する研究授業・協議を年1回以上実施する。
- (7)② 全学年男女共に東京都統一体力テストで全国平均以上を目指す。
- (8) 発達障害のある生徒における特別な支援等、特別支援教育に関する知識、理解を深め、組織的な取組を推進する。
  - ① 都立版エリアネットワークを活用し、特別支援教育コーディネーターの地区情報交換会への派遣、校内研修（情報共有）を実施する。
  - ② 特別な支援を必要とする生徒のニーズを把握し、個に応じた指導・支援を充実させる。
- (9) 組織的な美化指導の充実を図り、校内の環境整美に取り組む
  - ① 生徒の校内美化に対する意識を高め、長期にわたり少しずつ付着したため、これまでは汚れとして認識されてこなかった壁面等の汚れ除去に取り組む。
  - ② 全教職員による教室等の学習環境の整備やリサイクルに関する指導を強化する。

#### 数値目標

(9)① 校内美化に関する学校評価アンケートでの肯定的回答を80%以上とする。

### 【目標3】地域等との連携と情報発信の実現

(10) 連携型中高一貫教育を活用した地域等との連携を強化する。

- ① 外部組織と連携した障害者理解事業や各種のアスリート派遣事業等を活用し、「学校2020レガシー」を継続する。
- ② ボランティア・サポート・チームを生徒の主体的活動として位置づけ、校内外で社会貢献活動のできるチームとして、ボランティア・マインドを醸成する。

#### 数値目標

(10)① 「学校2020レガシー」に基づく体験活動を、年間2回以上実施する。

(11) 教育活動に関する情報発信と、募集対策のための広報活動を強化する。

- ① 様々な媒体を活用した教育活動等の情報発信により、本校の教育内容に理解のある生徒の募集に努める。
- ② ホームページとSNSなどを活用した本校の教育活動に関する情報を随時に発信する広報活動を推進する。
- ③ 学校見学会・施設見学会を実施するとともに、学校案内を中学校・学習塾への配布、外部団体が開催する説明会等にも可能な限り参加する。

#### 数値目標

(11)① 推薦に基づく選抜での応募倍率 4.5倍以上、学力検査に基づく選抜での応募倍率 2.0倍以上を目指す。

(11)② 外部配信320回以上 (HP更新240回・X(旧Twitter)80回)、塾訪問200校以上、見学・説明会等の来校者数4000人以上、オンデマンド配信等のアクセス数1000回以上を目指す。

### 【目標4】持続可能な学校づくりの実現

(12) 経営企画室と各分掌や各教科等と連携した効率的な教育活動・物品購入の推進

- ① 経営企画室と管理職・分掌等が協働して、本校の課題の解決を目指す予算編成と執行を実現する。
- ② 今年度の予算執行状況を踏まえ、次年度予算編成指針を10月中に策定する。

(13) 計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

- ① 学級経営に副担任も参画し、担任の補佐、学年庶務業務等の支援を行い、組織的に業務の効率化を図る。
- ② 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、業務の縮減と効率化を図り、実働勤務時間と在校等時間の縮減に取り組む。

#### 数値目標

(13)② 月当たりの時間外在校等時間45時間超過の教職員を一月10%未満とする。  
月一日以上の年休取得を目標とする。